

科目	現代思想文化論 (A Study of Modern Thinking and Culture)		
担当教員	李明哲 非常勤講師		
対象学年等	全専攻・1年・前期・必修・2単位【講義】		
学習・教育目標	D2(100%)	JABEE基準	(a)
授業の概要と方針	本講義では、現代のさまざまな社会問題について哲学・倫理的にアプローチします。そのさい、「グローバル」「多様性」という二つの視点を重視します。最近の地球規模での感染症拡大にともなう、経済活動の抑制、医薬品等の流通、国家や人種間での差別・分断などの問題も、その一例と言えます。授業方法としては、ディスカッションを多く取り入れ、プリントによる講義で補足する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[D2]現代の社会問題について、「グローバル」「多様性」という視点から、様々な倫理的対立の論点を理解する。		現代の社会問題について、「グローバル」「多様性」という視点から論点を理解しているか、定期試験および授業レポートで評価する。
2	[D2]現代の社会問題について、自分の意見を矛盾なく展開する。		現代の社会問題について、自分の意見を矛盾なく展開しているか、定期試験および授業レポートで評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験60% 授業中のミニレポート(グループディスカッションでのやりとり)40% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	授業プリントを使用する。		
参考書	『これからの「正義」の話をしていこう いまを生き延びるための哲学』マイケル・サンデル(早川書房) 『教養としての応用倫理学』浅見昇吾,盛永審一郎編(丸善出版) ほかにも講義で随時紹介する。		
関連科目	応用倫理学		
履修上の注意事項	テーマごとに、グループディスカッションに集中して取り組み、関心と知識を高めていきましょう。		

授業計画(現代思想文化論)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	「哲学・倫理学」「グローバル」「多様性」それぞれのイメージについて、意見交換し、考えを深める。
2	モラルジレンマ	事例をととして、どの選択肢もなんらかの犠牲を被る「モラルジレンマ」についての理解を深める。
3	「幸福」は数値化できるか?	「功利主義」について学び、現代の諸問題を考える準備をする。
4	なぜ、子供に「嘘はだめ」と教えるのか?	「カント義務論」について学び、現代の諸問題を考える準備をする。
5	「あの人はいい人」って誰が決める?	「徳倫理学」について学び、現代の諸問題を考える準備をする。
6	公衆衛生における個人の自由	感染症拡大の抑制やその予防において、多数の安全のために、個人の行動制限やワクチン義務化を施す問題を考える。みんなのために我慢すべきか?
7	「機会の平等」は公正か?	社会の多様性実現のために、マイノリティを優遇するアファーマティブアクションの狙いと、それに伴う問題を考える。能力主義の問題についても考察する。運も実力のうち? 実力も運のうち?
8	税金徴収は「搾取」か?	経済活動の自由(と市場の原理)を最優先し、福祉政策などの政府による介入を最小限にしようとする「リバタリアニズム」の考え方を学ぶ。自己責任論はどこまで可能か?
9	グローバル化とビジネス倫理	フェアトレードやコンプライアンス、異文化ビジネスや貧富の格差などの理解を深める。
10	みんなにとっての「正義」とは?	公的幸福感を追求するH.アーレントの思想を踏まえ、アメリカでの「自由」をめぐるJ.ロールズの「正義論」など「政治的リベラリズム」の論点を知り、「コミュニタリアニズム」からの批判も学ぶ。
11	公民権運動とフェミニズム運動	正義をめぐる議論の背景となった、1950～60年代アメリカでの黒人差別・女性差別への反対運動の歴史を知る。また、それらの運動が与えた、現代思想や応用倫理学への影響を学ぶ。
12	ジェンダーとLGBTQ	女性らしさ、男性らしさに見る多様性の問題点と、未だにある男女格差の問題を学ぶ。加えて、同性婚が認められていない日本の現状と、性的マイノリティにたいする国際的理解の動きを学ぶ。
13	グローバル化と「障害」	グローバル化された現代において、バリアフリーやパラリンピックなどに注目されがちだが、常に健常者目線に回収されてしまう障害者側からの視点と、その多様性を国内外の活動事例から学ぶ。
14	グローバル化における地球市民	グローバル化における地球市民とはなにか。SDGsを参照しながら考える。
15	まとめ	これまでの内容をまとめ、グループディスカッションをおこなう。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	<p>前期定期試験を実施する。 本科目の修得には、30時間の授業の受講と60時間の事前・事後自己学習が必要である。事前学習としては、各回テーマについて自分の知っていることや気になることを整理しておく。インターネットで情報収集する場合は、その情報源(新聞記事や論文など)を確認しておく。事後学習としては、グループディスカッションと講義内容を振り返り、自分が初めて得た見解や、改めて考え直した点を整理しておく。</p>	